

ゆめっとプラザ

2011 ▶ 2012

教育にイノベーションを
学校法人安城学園は平成24年で

100周年

安城学園100年の軌跡

東日本大震災復興支援ボランティア

社会人基礎力育成 産学・官学連携事業

大学・短大 キャンパストピックス

高校 いまを輝く!ゆめっとリポート

安城学園の幼稚園に入ってよかつたこと

安城学園創立100周年記念事業

安城学園は平成24年度(2012年度)に創立100周年を迎えます。この記念するべき節目に「教育にイノベーションを!

—『無限の可能性』に挑戦—をテーマとして、様々な記念事業を予定しています。

主な記念事業

- 学校法人安城学園創立100周年記念式典
- 100周年記念ホームカミングデイ
- 100周年記念写真展
- 東日本大震災復興支援事業
- 岡崎城西高校創立50周年記念式典(平成23年10月28日に開催)
- コミュニティ政策学会全国大会(学校法人安城学園100周年共催事業)
- 安城学園100年誌の制作
- 中部経済新聞連載コラム「安城学園物語」の冊子化
- 安城学園応援歌の制作

安城学園100年の軌跡



明治末期

創立者寺部だい・三蔵は女性の自立と地位向上を目指す教育のため、明治45年(1912年)に待望の安城裁縫女学校を安城市朝日町に開校。この当時、小学校を卒業した女性のための学校は、名古屋や岡崎などの大きなまちに数校しかなかった。

昭和時代

職業を持つて経済的に自立できる女性を育てるために、生徒の教員資格の取得を目指す。大正13年(1924年)には裁縫師範科卒業生には無試験で小学校裁縫科正教員になる資格を与えられ、職業学校としての基盤が確固たるものになった。

昭和初期

中等教員養成を目的とした専門学校設立の構想を立て、安城市小堤町に校舎を移転。山崎延吉らの協力の下、昭和5年(1930年)に安城女子専門学校を開校。農業と家事を直結させた教育を行い、さらに洋裁にも力を注ぎ、昭和18年(1943年)には専門学校の本科卒業生に中等教員裁縫科の無試験検定が認可された。

終戦後

戦後の学制改革により昭和23年(1948年)に安城女子職業学校、安城女子専門学校は廃校になり、その伝統はそれぞれ安城学園女子高等学校、安城学園女子短期大学の両校に引き継がれた。一方、新たに安城学園女子中学校、安城学園女子短期大学附属幼稚園を開校し、さらなる女子教育の拡充を図った。

昭和中期①

本館新築を皮切りに、短大生活科ビル、短大被服科新館・本館増設、講堂兼体育館を次々と建設し、教育施設の充実を進めた。同時期に高校では普通科・商業科を新設。生活科・家庭科を加えた西三河随一の総合女子高校へと発展。教科指導だけでなく生活やマナー指導にも重点を置いた教育を実践した。

昭和中期②

当時の西三河では私学で男子が学べる高校ではなく、また戦後の団塊の世代を受け入れる高校新設の要望が強くなつたため、岡崎市に男子校の岡崎城西高等学校、安城学園女子高等学校を開校(最初は附属高校の分校として昭和37年(1962年)に開設。翌年に岡崎市中園町へ移転)。そして昭和41年(1966年)には城西高校と同じ校地に愛知女子大学家政学部を開校。同時に愛知女子大学短期大学部幼児教育科と愛知女子大学附属幼稚園を開校し、寺部だいの遙かなる夢であった「4年制大学を頂点とするピラミッド型教育体系」の総合学園がついに実現した。

昭和62年(1988年)、豊田市若林町に短大国際教養科を開設。カピラノ大学(カナダ)、北京第二外語学院(中国)、メリマック高校(オーストラリア)などと姉妹校提携を結び、交換留学、海外研修旅行、しし学習やバイリンガル保育などをを行い、大学から幼稚園まで国際色豊かな教育を実践してきた。また、安城市桜井町に安城学園桜井幼稚園(昭和50年(1975年))と短大桜井学舎(昭和53年(1978年))を開設。寺部だいの生誕の地で地域の子ども達を教育することは、学園の年來の夢でもあった。

現在

様々な企業、商店、自治体などと産学・官学連携協定を結び、社会とつながる生きた学びの場を設けることで、社会で即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。また從来の「知育」「德育」「体育」に、新たに「社会人基礎力の育成」を加えることで、教育の世界にもイノベーションを興す事を目指す。

クラブ活動も活発に
安城学園女子短期大学のバスケットボール部は、昭和35年(1960年)に全日本学生選手権で初優勝。以降6年間連続優勝、公式戦207連勝の記録を樹立。また平成4年(1992年)には公式大会5冠達成など、様々な活躍をした。一方、安城学園高校では、ソフトボール部、女子バスケットボール部、陸上競技部、吹奏楽部などが、岡崎城西高校では陸上競技部、パワーリフティング部、ソフトテニス部、バドミントン部などが全国大会で優勝した。

全日本学生バスケット選手権大会に初優勝
(昭和35年)

安城市における幼稚園教育の先鞭をつける

幼児教育に対する関心が徐々に高まりつつあった大正15年(1926年)、安城女子職業学校に隣接して附設幼稚園を開校。安城市唯一の幼児教育の場であったが、昭和11年(1936年)に町立の安城保育園が誕生すると、入園希望者が激減したため附設幼稚園は閉鎖を余儀なくされた。



『主婦の友』記念号に紹介され全国区に

大正13年(1924年)9月に発行された『主婦の友』で寺部だいの伝記が紹介。苦難の人生を雄々しく乗り越えて成長し、苦勞の末、安城女子職業学校を開校させるまでの記事が特に若い女性とその親に大きな反響を呼び、次の年からは全国各地から入学生が集まった。



「主婦の友」記念号

東日本大震災 復興支援ボランティア

平成23年3月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。安城学園としては震災直後から募金活動を開始すると同時に、教職員を派遣して現地調査を行い、学園全体としての人的派遣の道を検討してきました。

復興への道のりは長く、5年・10年・20年がかりで考えていかなければいけない大きな問題ですが、学園として、また一人ひとりの人間として、今回の惨事を決して他人事と考えず、腰をすえて取り組みを続けていきたいと考えています。

半年が過ぎた現在までに系列校毎に様々なチームが現地を訪問しています。その中で、8月に高校と大学の2チームが現地に向って出発しました。一つは安城にも縁の深い七夕まつりに関して。もう一つは今なお生活の基盤が確立できない地域の直接支援に関して。悩みながら、心を痛めながら、真剣に取り組んだ生徒・学生の活動をご紹介します。



三河名物である五平餅を焼き振るまつた。

終わりない瓦礫やどぶの掃除に取り組む。

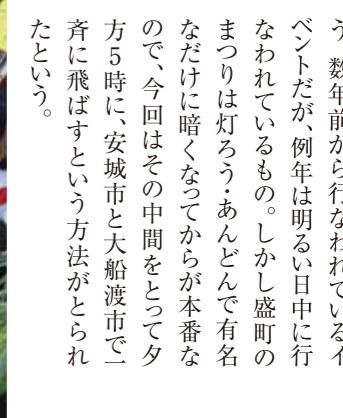
復興を願う様々な人が集まり、思い思いの願い事を風船に綴っていた。

風船を放つ瞬間にには大勢の人々が集まり、涙ぐむ人の姿も見られた。



岩手県大船渡市盛町。仙台から陸前高田、気仙沼も含め、数百年の歴史をもつ七夕まつりの大地域だ。3月11日の震災では、地震そのものによる被害は大きくなかったものの、その後の津波による被害は甚大で、今だ行方のわからない方も含め、多くの犠牲者を出した。「あんぐん七夕、道中踊り」で有名な盛町灯ろう七夕も当然開催が危ぶまれ、人的・資金的・そして何より精神的に今年は見送ろうとの声が多かったのは事実だという。

しかし、こんな時にこそ元気を出して欲しい、鎮魂復興の思いも込めて開催してほしいとの全国からの励ましも多く、万感の思いを胸に盛町の七夕まつり実行委員会はスタートした。一方、安城学園高校のある安城市では戦後から安城七夕まつりを開催。被災地を訪れた実行委員会から提案で安城七夕まつり実行委員会は、現地に赴き一緒に盛町の七夕まつりの準備・運営を支援することを企画した。実行委員の一員として一緒に祭りを盛り上げている安城学園高校もこの支援企画に参加し、引率の教員の他23名の生徒が大船渡市に向かう。安城七夕まつり実行委員会は、七夕当日の同時に「願い事ふうせん」を空に向かつて放とうという企画を考えた。



この「願い事ふうせん」。もともとは安城七夕まつりで、各自が願い事を風船に記して一齊に放つといふ、数年前から行なわれているイベントだが、例年は明るい日中に行なわれているもの。しかし盛町のため、今回はその中間をとった夕方5時に、安城市と大船渡市で一齊に飛ばすという方法がとられたという。

まつりは灯ろう・あんぐんで有名だけに暗くなつてからが本番なので、今回はその中間をとつて夕方5時に、安城市と大船渡市で一齊に飛ばすという方法がとられたという。

まつりを3名招き、シンポジウムに参加して頂きました。また逆にこちらからもあちらの学園祭にお邪魔することが決まっています。

今後も息の長い交流を続けていきたいと思います。

学園祭実行委員会でシンポジウムを企画した生徒たちも口を揃えて言う「私達が見てきたこと、感じたことを伝えていくのが大切だと思います。そしてもうと大切なのは決して忘れないこと。今この瞬間にも耐えて、頑張っている人たちがいることをいつも心に持つていようと思います」。

1泊4日の強行軍で、短時間で

はあるが、実際に現地を見て触れて、考えてきた安城学園の生徒たち。

体験に基づく様々な思いが各

自の心中で化学反応を起し、

色々な場面で本当に力を發揮する

のはこれからなのかも知れない。

レポート2

愛知学泉大学 被災地支援ボランティア



愛知学泉大学の震災後の動きは早くつた。震災1週間後、3月18日の卒業式、翌週4月2日の入学式で、学生会とサークルが白発的に募金活動を開始。「募金活動とは別に自分たちで何ができるかを考えた」と多くの学生の声を胸に、4月半ばから順次、現代マネジメント学部・コミュニケーション政策学部の教員が現地に入り、支援に関わる調査を続けた。

報告会では、自由参加にもかかわらず約70名の学生が出席。多くの人が現地での活動を希望する姿にうたれた教員達は、早速具体的な支援計画を作成する。

そのポイントは3つ。(1)安全確保 (2)メンタルケア (3)学部の学びを生かす。

①の安全確保はボランティア活動を行なうまでの最低条件。自らの安全を自ら確保できないようでは現地の足手まいになりかねない。

②のメンタルケア。これは被災された方への対応を熟慮すると同時に、現地体験することによる自らの心身の影響についても理解対応できることも含まれる。

③の学部の学びを生かす。これは被災地におけるコミュニティづくりを生かす。これ

は普段慣れない作業に加えて、被災者の方達が突然、全員に昼ごはんを振舞つてくれたといふ。苦しい中、自分達にまで気を配ってくれ

る優しさに学生達は心打たれ、数日間の疲れが吹き飛ぶと同時に、申し訳ないような切ない気持ちになつた者も多いという。

今回のプロジェクトで中心的な役割を果たした、現代マネジメント学部の山本准教授と谷口准教授は口を揃える。「仮設住宅でのクリエーションやメンタルケアなど、計画していたことができない等の小さなトラブルはありましたが、学生達は本当によく動いてくれました。何より自分から働きかけて、体当たりでぶつかっていく姿勢には頗もしさすら感じましたね。今回の経験を今後に生かし、是非とも有意義な学び、そして社会での実践につなげていってほしいと思います」。

最終日、仮設住宅の皆さんと、人々の笑顔に励まされ心から復興を願う。

一方、大学にはバックオフィスを設け、各種情報の収集・整理・発信を行い、連日現地活動の様子と安否も出てくる状況の中、最後の活動日、避難所で生活している被災者の方達が突然、全員に昼ごはんを振舞つてくれたといふ。苦しい

普段慣れない作業に加えて、被

災地での活動にうつ状態になる学生も出てくる状況の中、最後の活

動日、避難所で生活している被災

者の方達が突然、全員に昼ごはんを振舞つてくれたといふ。苦しい

愛知学泉大学 / 短期大学

社会人基礎力育成

大学・現代
マネジメント学部各種
NPO団体

ソーシャルビジネス・インターンシップ

現代マネジメント学部(馬場研究室など)では、地域のNPOや企業との協働プロジェクトを通じて、社会で起こっている様々な問題への関心を高め、プレゼン発表することによって、ビジネススキルを養う機会としています。

今年はコミュニティ・ユース・バンクmomo、公益財団法人豊田市国際交流協会、有限会社はっぴー農産、株式会社ジオコスなど9つのNPOや企業に協力をいただき、約25名の学生が夏期休暇を中心合計180時間の研修・学習を行いました。



「コミュニティ・ユース・バンクmomo」
小笠原 有美さん、酒井 正美さん、清水 紘一郎さん

「市民からの出資金を地域での活動に融資するNPOバンクです。利潤の追求を目的とした一般の企業相手とは異なりますが、出資者の思いを実現するためにも、活動の目的や熱意、また健全運営できるかどうかの審査は重要です。顔の見える融資、心の通ったお金の使い方を考えさせられました。」



「公益財団法人 豊田市国際交流協会」
田中 友子さん、西尾 敏弘さん

「国際交流・国際理解教育・多文化共生を三本柱とした公益財団法人です。豊田市には日系ブラジル人を始めとした在日外国人が多く、その子供達の教育問題やさらには今後の就職問題が大きな課題となっています。彼らを経済の犠牲者にすることなく、国として、地域として、人としてどう責任を果たしていくべきかを考える必要があります。」



「有限会社はっぴー農産」
坂本 勇太さん、渡邊 大地さん

「都市や地域に暮らす人たちのため、豊かな自然を提供し、交流の場となるよう心豊かな農業を目指している農業団体です。実際の農業はもちろん大変な面も多いですが、「農への回帰」が今後一層進み、現代人のこころの問題としても、今後農業は重要なキーワードになってくると思います。」



「株式会社ジオコス」
石川 正嗣さん、上田 晴仁さん、平松 舞子さん

「中小企業の採用支援を多方面から行なっている広告代理店です。アボ取りから取材、原稿作成やテープ起こしなど、実際の仕事を一通り体験させていただきました。仕事に対する姿勢や納期管理・コミュニケーションの重要性など、学ぶことは多かったです。」



2011年度インターンシップ受け入れ団体(順不同・敬称略)

大学・家政学部
家政学専攻デンパーク内、
和食処ふるさと館

デンパーク ふるさと館メニュー開発

来年3月からの販売を目指して、安城の郷土料理でもある「箱寿司」の新メニューを考えています。全員がしっかり参加して意義深い学習にするために、ほとんど毎日のように議論を重ね、試行錯誤を繰り返しています。私たち学生は、つい自分達の専攻分野に頭が傾き視野が狭くなりがちで

すが、それだけでは実際のビジネスでは不十分。スケジュール管理やコスト・調理時間などにも配慮しながら、でもやっぱり最終的にはお客様に楽しんで頂けるお料理を考えたいと思います。来年春にはみなさん、デンパークのふるさと館でぜひ私達の力作を味わってくださいね。

Aチーム:プロジェクトリーダー
家政学部管理栄養士専攻2年
近藤 沙織さん↓管理栄養士専攻の選り抜きの9人。
通常授業と並行してのプロジェクトは大変だが、得られるものも大きい。大学・家政学部
管理栄養士専攻おかげの松美屋・
JAあいち
中央産直センター
安城南部店Bチーム:プロジェクトリーダー
家政学部管理栄養士専攻2年
鈴木 希美さん

健康栄養弁当開発

今回のテーマは安城と縁の深い“新美南吉”と“石川丈山”です。2つのチームでそれぞれのテーマに沿って、栄養バランスや品数の豊富さ、色あいや香り、さらにはお弁当ならではのさても美味しい調理を考えて複数案を模索中です。商工会議所、市役所、お店のオーナーの方などとの打合わせでは、その真剣さやプロ意識に圧倒され、自

分達の考え方・態度の良さを感じました。「柔軟に、そして深く考えること」「自分の意見をしっかりと持ち人に伝えること」「自分から積極的にまず動くこと」。これらの大切さを実感しながら、管理栄養士の名に恥じないお弁当を必ず生み出してみせます。

Aチームテーマ

新美南吉

「ごんぎつね」で有名な童話作家。25歳の時に安城市内の高校の教員となり、29歳で亡くなるまで勤めた。

Bチームテーマ

石川丈山

安城出身の江戸時代初期の文人。漢詩・書道・茶道に長け、煎茶の祖とも呼ばれる。

多様な価値観を受け入れ、まわりの人たちと調和を図りながら、自ら考え行動できる社会人を育成する「社会人基礎力育成プロジェクト」。経済産業省が推進するモデル事業に本学が採択され早5年になりますが、学内ではこの事業を自分達なりに消化・吸収し、社会と積極的に関わり自らの学びに結びつけようとする考えがすっかり定着してきました。大学・短期大学での取り組みを紹介します。

←イメージは豊富に出てくる。しかしそれを商品として形にしていくのが難しい。真剣な打合わせが続く。



↑前列中央がリーダーの佐々木愛乃(よしの)さん(4年)。
プロジェクトを通して、意思疎通の大切さを肌身で感じているそう。

豊田キャンパス トピックス

愛知学泉大学
現代マネジメント学部・経営学部・コミュニティ政策学部

豊田 ボランティアサークル「ジョイナス」

愛知県社会福祉協議会で会長賞受賞!!

ボランティアサークル「ジョイナス」が第59回愛知県社会福祉大会で「愛知県社会福祉協議会会長賞」を受賞しました。現在の学生数は約40名。「ジョイナス」は24時間テレビのチャリティー募金やエコキャップに参加するなど、県内各地で行われるイベントや様々な活動に協力しています。これらの活動実績が評価されて、今回の表彰となりました。



大会には約10,000名が参加。愛知県社会福祉協議会会長賞は、「ジョイナス」の他117名15団体が受賞しました。

豊田 「学生研究発表会」「外国語発表会」

学泉祭で成果を発表しました。

大学祭の開催に合わせて、日頃の研究活動を発表する「学生研究発表会」と自分の外国語力に挑戦する「外国語発表会」を開催。どちらの発表会でも、学生たちは少なからず緊張していましたが、多数の人前で自分の考えを披露する力が鍛えられたと思います。



学生研究発表会にて。日本の韓流現象について研究した結果を発表しました。



外国語発表会にて。写真的学生は英語・中国語・韓国語の3部門に挑戦しました。

豊田 「無限の可能性」に挑戦する学生たち

『無限の可能性』特別奨学生制度

この奨学生制度は、高校までの成績にとらわれず、自身の「無限の可能性」に積極的にチャレンジする学生を支援することを目的としています。奨学生の認定要件として、学習の基本である講義への出席率や単位取得数について基準数があります。また「振り返りシステム」で自己評価をおこなうことや、大学の指定する課外活動(クラブ・サークルなど)の一つに参加することなども認定要件に含まれています。学生生活を積極的に頑張っている学生が奨学生として認定されます。

『無限の可能性』特別奨学生募集

今、企業が「就職力」として注目する『社会人基礎力』。本学は平成20年度から社会人基礎力を核にした体系的教育プログラム『無限の可能性』を開発してきました。そこで「自身の無限の可能性」に積極的にチャレンジする学生を支援するための『特別奨学生制度』を設けています。

★奨学生の支給は4年間続きます!

奨学生は最大で112万円(毎年28万円×4年間)となります。なお、2年次以降の奨学生の支給は前年度の評価等により決まります。継続の場合は、28万円、14万円、7万円の3段階で奨学生支給額を決定します。

※特別奨学生制度の詳しい内容は、愛知学泉大学豊田キャンパス入試広報室(TEL 0565-31-4666)までお問い合わせください。

特別奨学生(返還不要)
初年度支給額
28万円
募集枠
現代マネジメント学部
100名

岡崎キャンパス トピックス

愛知学泉大学 家政学部(子どもの生活専攻・管理栄養士専攻・家政学専攻)
愛知学泉短期大学(生活デザイン総合学科・食物栄養学科・幼児教育学科)

岡崎 烏山大学との語学研修プログラムを実施

今年も烏山大学と交換語学留学を実施。
顔と顔がつながる深い日韓交流ができました!

本学の交換留学先の一つである韓国の烏山(オサン)大学と、今年も短期語学研修を実施しました。7月に烏山大学より15名の学生が来日。日本語の授業の他、在学生との交流授業や日本の伝統文化体験、開田高原でのキャンプ体験など行いました。また8月には本学から13名の学生が訪韓。韓国語の授業を中心に、文化財の見学やテコンドー体験、ホームステイなどを経験し、韓国の文化を肌で感じました。この他、昨年に続いて烏山大学の大学祭を訪問してブースを出展する等、深い交流を行っています。



愛知学泉短期大学で行った開校式。

岡崎 生活デザイン総合学科の学生が手作りアクセサリーを販売

制作から販売まで、
ファッショニビジネスの一貫した体験をしました。

生活デザイン総合学科の長谷川ゼミでは、9月に行われた「おかざきカントリーフェスタ」に手作りアクセサリー店を出店しました。事前に客層や価格帯などを調査して、約2ヶ月かけてネックレス、ドライフラワー、ヘヤアクセサリー、ストラップ等を制作。お客様の購買意欲がわくように陳列し、実際に接客して販売することで、ファッショニビジネスの流れを経験することができました。



最初は少し緊張気味だった接客も徐々になれ、自分の作品を買っていただける歓びを経験できました。

第25回管理栄養士国家試験 合格率100.0%

全国平均を大きく上回る合格率。
受験者全員合格を目指しています!

家政学部管理栄養士専攻では1年次からきめ細やかな指導を行い、国家試験受験者全員合格を目指す万全の体制を整えています。平成23年3月に行われた第25回管理栄養士国家試験では合格率100.0%を記録しました(全国平均は40.5%)。教職員一丸となって、国家試験合格に向けた支援を強力に行っていきます。

※受験者数75名(卒業生83名)、合格者数75名

全国高等学校ダンスドリル選手権大会別名「ミスダンスドリルチーム全国大会」。地区予選を勝ち抜いた約100チームの高校生が、個々の技術やチームワークはもちろん、競技に対する態度や身だしなみ、表情・衣装など、ダンスの魅力を総合的に競い合う全国大会だ。過去2年連続で全国大会出場を果たしている安城学園高校ダンス部にとって、部の最大の目標はこの大会で全国まで勝ち上ること。高校入学時から全国出場する先輩の後姿を見てきた今年の3年生、特に部の中心となる部長・副部長たちにとっては、そのプレッシャーは相当なものであつたに違いない。

私が入部した時の3年生が、安城学園高校として久しぶりに全国大会出場を決めました。翌年の先輩も続いた後ですから、当然プレッシャーは大きかつたですよ。連続出場の灯を絶やすわけにはいかないと、部長に選ばれたときは本当に緊張しました」。

全国大会が開催される次の週には、高校全体で協力している地域の祭り「安城七夕まつり」にも出演する。彼らは、そのプレッシャーは相当なものであつたに違いない。

「私が入部した時の3年生が、安城学園高校として久しぶりに全国大会出場を決めました。翌年の先輩も続いた後ですから、当然プレッシャーは大きかつたですよ。連続出場の灯を絶やすわけにはいかないと、部長に選ばれたときは本当に緊張しました」。

「顧問や外部講師が振り付け等の指導はしてくれます。でも年に5~6回ある発表会や大会に向けての振り作りや練習は全て自分達の責任で行なわなければいけないので、毎日相当悩んで話し合って考えました」。

だから、練習はお世辞にも楽とは言

い難い。毎日1時間半、土曜日は午前

中の3時間が基本だが、実際には自主

練で毎日夜7時まで、土曜日も朝練や

午後練でほぼ1日を練習に費やす。体

力に自信のあった長房さんも、初めは

そのハードさに驚いたと言う。「ダンス

は柔軟性やスピード感、リズム感が大

切なのはもちろんですが、その前ま

ず基礎体力がないと全くついていけない」と語る。練習メニューはアップ、

柔軟の後、ランニング・筋トレ・ボディコン

と一緒に、その後やつと創作ダンスに入

ります。音楽に合わせた3分腹筋や、

開脚キープなど、実戦に近い形で考

ながらトレーニングを組んでいます」。

チームワークが重要なだけに一人ひ

とりの体力やスキルの未熟さが、チーム

全体会の足を引っ張る怖さを持つ。それ

だけに長房さんは集中力や向き合う

姿勢を大切にする。

「練習はみんな真剣です。チーム毎でお

互い発表を繰り返し、指摘し合つて改

善を繰り返す。そこには先輩も後輩

もありません。でも思い切り練習をし

た後は気持ちがすっきりして、色々な

ことも前向きに考えられるんですよ」。

今年7月27・28日、東京体育館で開

催された全国大会。東海大会を勝ち

抜いた長房さん率いる安城学園ダンス

部は、見事3年連続で今回も出場を果

たした。大役を果たした長房さん、卒

業が視野に入ってきたこの秋、3年間を

振り返った。「何から何まで試行錯誤の

連続でしたが、真剣に向き合うことで

仲間との絆も深まり、ダンス部を選んで

本当に正解でした。この思い出は一生忘

れることはあります。後に続く人々

にも、一生懸命やることの素晴らしい

是非感じて欲しいと思います」。



安城七夕まつりに出演して祭りを盛り上げる

安城学園高等学校 ダンス部

ゆめつとりポート

部活に全力投球。日々の厳しい練習、様々な人々との交流などを通して自分を磨き

大きな成長を遂げた両高校の生徒さんに話を聞きました。

自分が感じた気持ち・想いを素直に表現できればいいなと思います。

いま輝く!
For the Future

大きなプレッシャーを乗り越えたこの充実感。ダンス部に入って本当に良かった!

「ダンス部にとって、部の最大の目標はこの大会で全国まで勝ち上ること。高校入学時から全国出場する先輩の後姿を見てきた今年の3年生、特に部の中心となる部長・副部長たちにとっては、そのプレッシャーは相当なものであつたに違いない。

「私が入部した時の3年生が、安城学園高校として久しぶりに全国大会出場を決めました。翌年の先輩も続いた後ですから、当然プレッシャーは大きかつたですよ。連続出場の灯を絶やすわけにはいかないと、部長に選ばれたときは本当に緊張しました」。

全国大会が開催される次の週には、高校全体で協力している地域の祭り「安城七夕まつり」にも出演する。彼らは、そのプレッシャーは相当なものであつたに違いない。

他の部活もそうだが、ダンス部も決して手取り足取り教えてくれるといふ部活ではない。音探しからチーム作り、振り付けや衣装など、そのほとんどは自分で考えて決めてきたという。

「顧問や外部講師が振り付け等の指導はしてくれます。でも年に5~6回ある発表会や大会に向けての振り作りや練習は全て自分達の責任で行なわなければいけないので、毎日相当悩んで話し合つて考えました」。

だから、練習はお世辞にも楽とは言い難い。毎日1時間半、土曜日は午前中の3時間が基本だが、実際には自主練で毎日夜7時まで、土曜日も朝練や午後練でほぼ1日を練習に費やす。体

力に自信のあった長房さんも、初めはそのハードさに驚いたと言う。「ダンスは柔軟性やスピード感、リズム感が大切なのはもちろんですが、その前ま

ず基礎体力がないと全くついていけない」と語る。練習メニューはアップ、

柔軟の後、ランニング・筋トレ・ボディコン

と一緒に、その後やつと創作ダンスに入

ります。音楽に合わせた3分腹筋や、

開脚キープなど、実戦に近い形で考

ながらトレーニングを組んでいます」。

チームワークが重要なだけに一人ひとりの体力やスキルの未熟さが、チーム

全体会の足を引っ張る怖さを持つ。それ

だけに長房さんは集中力や向き合う

姿勢を大切にする。

「練習はみんな真剣です。チーム毎でお

互い発表を繰り返し、指摘し合つて改

善を繰り返す。そこには先輩も後輩

もありません。でも思い切り練習をし

た後は気持ちがすっきりして、色々な

ことも前向きに考えられるんですよ」。

今年7月27・28日、東京体育館で開催された全国大会。東海大会を勝ち

抜いた長房さん率いる安城学園ダンス

部は、見事3年連続で今回も出場を果

たした。大役を果たした長房さん、卒業が視野に入ってきたこの秋、3年間を

振り返った。「何から何まで試行錯誤の連続でしたが、真剣に向き合うことで仲間との絆も深まり、ダンス部を選んで本当に正解でした。この思い出は一生忘

れることはあります。後に続く人々にも、一生懸命やることの素晴らしい是非感じて欲しいと思います」。



安城学園高校ダンス部(全員3年生)
副部長 湯田 梨佳さん 副部長 緒方 彩香さん 部長 長房 瑞希さん 副部長 亀田 琴乃さん

作品作りは基本的に「個人」だけど、みんなで集まってつくるのもすづごく楽しいんです。

同じく岡崎市民美術展で彫刻・工芸部門の岡崎市教育委員長賞を受賞した飯田結偉さん。驚くことに彼女もまた中学時代まではスポーツ少女であり、彫刻作品に関してはこれまで毎年賞を取っていた。昨年初めて彫刻を作り、次は生きじさせる、壮大で心を打つ作品が完成した。

顧問の福岡先生は鈴木君をこう評する「彼は表現に関して独自で研究開発していくタイプ。工夫を重ね、独創的なアイデアが身体の中からどんどん出てくる。壁にぶつかった時に乗り越えていく力も強く、非常にいいものを持っている」。

参加したことがきっかけで城西高校、そして美術部を目指した鈴木君。今、その秘められた可能性が一気にはじけ始めたようだ。

同じく岡崎市民美術展で彫刻・工芸部門の岡崎市教育委員長賞を受賞した飯田結偉さん。驚くことに彼

色々な体験を通して、
「こころの引き出しを
増やしてくれればと願っています。」

幼稚園を決める際、子どもに出来る限り沢山の体験をさせてくれる園を思い、いくつか見学をした後、大学附属幼稚園を選びました。

園では、野菜作りやシジミ採り、ブランチによるブールや体操指導など、実に色々な体験をさせてもらっています。おかげで子ども達も知的好奇心がとても強くなったようで、最近では、家でアサガオを育てて図鑑と比較をして仕度をし、みんなと朝を迎えるようになりました。

年長になって親の同伴なしで一泊のサマー・キャンプに行きましたが、彩巴は自分で随分成長して帰ってきました。自分で料理の準備や後片付け、寝る仕度をし、みんなと朝を迎えるという

体験が、子どもに大きな自信を与えてくれたようです。これからも色々な事をどんどん体験して、今でしか得られない豊かな感性を身につけてほしいと願っています。



愛知学泉大学 附属幼稚園



↑ サマー・キャンプにて



↑ 運動会で鼓笛披露

**愛知学泉大学
附属桜井幼稚園**

**幼稚園に行くのが
毎朝待ちきれないくらい楽しんでいます。**

うちの子どもたちにとって桜井幼稚園は、他には替えがない大切な場所。裸足で芝生の上をかけまわり、泥んこになりながらバッタや蝶を追いかける毎日は、親の知らないところで色々な感受性を育んでくれているようです。また、何をしたいか自分で考へ決められる環境は、与えられないともできないのは正反対の、たくましい自発性を育ててくれていると思います。

幼稚園を心から楽しんでいる上の子は、最近になって小学校へ早く行きたがるようになりました。色々なことで自信をつけ、さらに新しい世界を早くのぞいてみたいんでしょうね。決してできない子には自然に手を差し伸べます。

幼稚園を決める際、子どもに出来る限り沢山の体験をさせてくれる園を思い、いくつか見学をした後、大学附属幼稚園を選びました。

園では、野菜作りやシジミ採り、ブランチによるブールや体操指導など、実際に色々な体験をさせてもらっています。おかげで子ども達も知的好奇心がとても強くなつたようで、最近では、家でアサガオを育てて図鑑と比較をして仕度をし、みんなと朝を迎えるという

年長になって親の同伴なしで一泊のサマー・キャンプに行きましたが、彩巴は自分で随分成長して帰ってきました。自分で料理の準備や後片付け、寝る仕度をし、みんなと朝を迎えるという

体験が、子どもに大きな自信を与えてくれたようです。これからも色々な事をどんどん体験して、今でしか得られない豊かな感性を身につけてほしいと願っています。



↑ 森の音楽祭(生活発表会)にて



↑ 森のなかよし運動会にて

愛知学泉 短期大学 附属幼稚園



小鳥居家

母 和美さん
子 寛一郎くん(地球組)
子 美胡ちゃん(口ケット組)

温かく大らかに
子どもを見つめてくれる環境で、
子どもはどんどん自信をつけています。

私自身も短大附属幼稚園出身で、幼稚園では生活発表会や運動会など、楽しい思い出しかなかったので迷わずこちらに決めました。

おしめもとれず、言葉もあいまいだった寛一郎は、今では朝5時過ぎに起床して自分で読書をし、朝食後は自分から公文式の勉強を1時間以上するなど、随分としっかりしてきました。将来の夢はお医者さんになることだそうで、ですが、実は親から「あれをしろ、これをしろ」なんて1度も言つたことがないんです。それでも一人でどんどん興味のあることを見つけてきては熱中している様子を見ると、やはり褒めて育ててくれたんだろうなって改めて思います。

先生方も本当に温かく、園長先生自ら、毎日のように門でお出迎えをし

てくれます。何にでもチャレンジさせてくれる短大幼稚園を選んで本当に正解だったと思っています。



↑ 安城七夕まつり鼓笛パレード



↑ 保育参観にて

安城学園の幼稚園に ハツカよかつたこと

本学の3幼稚園の建学の精神は『真心・努力・奉仕・感謝』。子どもたちのやさしい気持ち、素直な心を伸ばすことを大切にしています。また、子どもたち一人ひとりの特性や成長の度合いを見極め、きめ細やかな保育ができるよう、教職員一同努めています。

幼稚園を決める際、子どもに出来ることで自信をつけ、さらに新しい世界を早くのぞいてみたいんでしょうね。決してできない子には自然に手を差し伸べます。



↑ 森の音楽祭(生活発表会)にて



↑ 森のなかよし運動会にて

愛知学泉 短期大学 附属幼稚園



部活・クラブ活動

全国レベルの実力! スポーツ系クラブと文化系クラブ。
学生・生徒の潜在能力開発の一因を担っています。

岡崎城西高校 OKAZAKI JOHSEI HIGH SCHOOL

ソフトテニス部

今年は男子・女子ともに全国高校総体(インターハイ)に出場。個人戦に男女4組づつ出場し、男子の前澤・松井ペアがベスト16。また女子は団体戦も出場し、ベスト16まで勝ち進みました。

陸上競技部



男女合わせて8名が全国高校総体(インターハイ)に出場。新橋基功さんが800mで4位入賞しました。

バドミントン部

今年も男子・女子ともに全国高校総体(インターハイ)に出場し、団体戦は男子がベスト8、女子がベスト16。またシングルス部門で間瀬亮介さんが準決勝まで勝ち進みベスト4になりました。

剣道部

近藤俊彦さんが男子個人戦で全国高校総体(インターハイ)に出場しました。

パワーリフティング部



愛知県大会、東海大会を突破し、30回連続出場の全国高校選手権大会に今年は12名が参加。その内5名が6位までに入賞しました。

チアリーディング部

6月の中部選手権大会に出場し、高校部門で第3位入賞。5年連続で全日本高等学校選手権大会に出場しました。

安城学園高校 ANJOGAKUEN HIGH SCHOOL

バスケットボール部(女子)

6月の県大会で準優勝し、2年連続17回目の全国高校総体(インターハイ)に出場しました。



ダンス部

6月の全国高校生ダンスドリル選手権大会東海大会 Hip Hop部門(ラージ編成)で第2位。3年連続で8月の全国高校生ダンスドリル選手権大会全国大会に出場しました。

吹奏楽部

中部日本吹奏楽コンクール中部大会、愛知県マーチングコンクール、東海マーチングコンクールの全ての大会で金賞を受賞。11月に開催されるマーチングコンクールの全国大会に出場しました。

ソフトボール部



7月の愛知県高校選手権大会で27年ぶり8回目の優勝(昭和40年以降)し、中日本総合女子ソフトボール選手権大会の出場権を獲得、準優勝を飾りました。

バレーボール部

6月の愛知県ビーチバレーJuniors選手権大会で4人制は優勝、2人制は準優勝(2年生)と第三位(3年生)。2人制チームは愛媛県で行われた全国大会に出場しました。

愛知学泉大学・短期大学 AICHI GAKUSEN UNIVERSITY AICHI GAKUSEN COLLEGE

バスケットボール部



<女子>

Aチームは今年も春のトーナメント戦、秋のリーグ戦ともに優勝。西日本大会では第4位でしたが、2年連続準優勝で終った全国大会(インカレ)では優勝できるようトレーニングに取り組んでいます。Bチームの秋のリーグ戦は3部2位に終わりました。来年度に向けて練習に励んでいます。

<男子>

春のトーナメント戦は今年も準優勝。西日本大会ではベスト8でしたが、秋のリーグ戦では見事優勝し、女子Aチームと共に全国大会の出場権を獲得しました。

空手道部



10月に開催された東海地区大学空手道選手権大会で、男子が2年連続「団体組手」部門で優勝を飾りました。11月には全日本大学空手道選手権大会に19年連続で出場します。また、男子の「個人形」では表彰台を独占し、男子「個人組手」の優勝と合わせて圧倒的な強さを見せました。

サッカー部

東海大学サッカー選手権大会に今年も出場。現在、東海大学サッカーリーグ戦は2部ですが、1部昇格を狙って鋭意奮闘中です。



発行／学校法人 安城学園

〒446-8635 安城市小堤町4-25 TEL(0566)77-7788

http://www.gakusen.ac.jp/anjogakuen_pr/

企画・編集／株式会社 パピルス

ゆめっとプラザは再生紙(古紙100%)を使用しています。